

ひな祭りとお話

昨日 3/3 はひな祭りでした。お家でひな人形を飾った人もいます。ひなあられや菱餅^{ひしもち}も、ひな祭りでは定番のおやつですね。ひな祭りは「桃の節句」に行われます。旧暦の 3/3 なので、桃の花にはまだちょっと早い感じですが、今回は、「節句」に関連してつづやこうと思います。

どちらかという社会の学習内容ですが、「節句」は中国から伝わった暦の一種で、2/3 のつづやきで取り上げた「二十四節気」と似ている点があります。江戸時代に 5 つが休日として定められ、

1/7 「人日^{じんじつ}（七草の節句）」

3/3 「上巳^{じょうし}（桃の節句・ひな祭り）」

5/5 「端午^{たんご}（菖蒲^{しょうぶ}の節句）」

7/7 「七夕^{しちせき}（笹^{たなばた}の節句・七夕）」

9/9 「重陽^{ちょうよう}（菊の節句）」

のうち、5/5 だけが現在も祝日（こどもの日）として残っています。普段なまけているとみんなが休んでいる時に働くはめになる「なまけものの節句働き」なんてことわざも残っていますね。

どの節句も植物と結び付けられているのが興味深いです。やはり昔は動植物で季節を感じるが多かったということなのでしょう。理科との関連が深いものとしては 1/7 に食べる「七草がゆ」があげられます。

七草がゆは、春の七草「セリ・ナズナ・ゴギョウ（ハハコグサ）・ハコベラ（ハコベ）・ホトケノザ（コオニタビラコ）・スズナ（カブ）・スズシロ（ダイコン）」

の小さな芽をおかゆに入れて食べる風習で、無病息災^{むびょうそくさい}を願い、正月にお酒などでいたんだ胃を休めるといういわれがあるようです。（あん Do は今年のお正月はそれほどお酒を飲みませんでした…）

春の七草は、短歌のように「5・7・5・7・7」のリズムで覚えられるのはありますが、現在の一般的な日本名とは違う名前と呼ばれている植物が多いのは頭の痛いところです。特にホトケノザは、現在はシソ科の全く異なる植物がそう呼ばれているため、混乱しないようにしっかり覚えておく必要があります。これも5年生になったら全員おぼえてもらいますよ。



左：七草のホトケノザ（コオニタビラコ・キク科）写真は「みんなの花図鑑」による
右：ホトケノザ（シソ科）写真は庭木図鑑 植木ペディアによる

他の節句については、また機会があったら取り上げたいと思います。七夕は、植物よりも天体に関連の強い節句ですね。楽しみにしててください。

23/3/4 （通勤路のウメの香りに春を感じる）あん Do



みんなの花図鑑



庭木図鑑 植木ペディア



七草 (Wikipedia)